

芦屋市立打出保育所 様

公益財団法人 ソニー教育財団
ソニー幼児教育支援プログラム
審査委員会

2021年度
「ソニー幼児教育支援プログラム」審査講評

審査のポイント

- 子どもの主体性や感性、発想・意欲を活かした、創意工夫のあるユニークな取り組みが展開されているか。
- 貴園が考える「科学する心」が明確に記述されているか。さらに、園独自の考えに基づく「科学する心を育てる」保育の手立てが具体的に示されているか。
- 子どもの姿や保育者の関わりや環境構成などが具体的に記述されているか。
- 子どもの姿を、貴園が考える「科学する心を育てる」視点から、育ちや変容を的確に捉えて考察につなげているか。
- 本実践で得た考察に基づく課題を抽出し、それを改善するための「今後の方向性（計画）」が具体的に記述されているか。

貴園は、実体験の大切さを念頭に置いて、新しい保育へのチャレンジとして、令和2年度から積極的に ICT 機器の活用を取り入れ、さらに主題「科学する心を育てる」保育の理解を深めることに熱意をもって取り組まれました。

ICTの活用は、動画・写真・閲覧サービスによる家庭との連携に始まり、保育の振り返りに活かす取り組みから、他園とのリモート交流、消防署見学からの遊びの発展など、保育の様々な活用へと広げたことで、子どもの体験の豊かさや学びの深まりが読み取れます。

さらに、言葉や絵、絵本制作での表現活動など、質の違う活動へと体験が広がる展開をしています。

ICT機器の活用により、コロナ禍であっても他園との温かい交流が継続し、手紙でのやり取りや遊びの広がり生まれ、火災報知器や命を守るものへの探究につながる契機にもなりました。このような、主題に迫る保育や地域との繋がりを深める工夫が他園の参考になる実践として評価されました。

全体的に、保育計画による活動の流れに沿って概要が記述されるに留まっている部分が多い印象を受けました。例えば、子どもが自発的にタブレットを使った雪の結晶の観察やアプリを使って立体を作ったり音を集めたりしている姿、絵本制作の過程での対話などもう少し焦点を絞った遊びの姿の詳細な記述があると、「科学する心」の体験や育ちの深い読み取りに繋がり、説得力のあるものになったと思います。

本年度の課題を踏まえ、これからも、「科学する心を育てる」取り組みを継続し、成果をご報告いただけることを期待しております。

貴園の益々のご発展を祈念いたします。